

「不便」の価値を見つめ直す

川上 浩司 (かわかみ ひろし)



本文を要約して筆者の主張を捉え、自分の考えをまとめよう。

〔学習活動〕

「學習活動」

目標

- 必要な情報を選び、結び付けて要約する。
- 目的に応じて文章を要約し、筆者の主張に対して自分の意見をもつ。

「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。

こう尋ねると、たいていの場合、けげんな顔をされる。「便利でよかった」ならばわかるが、「不便でよかった」とはどういうことか、不便でよかったことなんてあるはずがない、というわけだ。そこにあるのは、「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という価値観である。実際に、今の世の中は便利であることをもってはやすものである。テレビやインターネットのコマースシャルを見ていると、「手間要らずで、なんて便利」「もっともっと便利に」という調子のものが多い。

私の専門である機械の設計や工業デザインの分野でも、長い間、便利を追求することが大きな指針であり続けてきた。手間を省き、便利を追求することこそ、人の生活を豊かにすることだと考えられてきたのだ。使う人の手間がかからない

9 **工業デザイン** 生活に関わる道具や機器のうち、工業的に大量生産され、大勢の人々に使われるものの企画や設計。

2
け
げ
ん
意

9
追求
文

7 訓 要る (いる)

よう、また使う人が迷ったり考えたりしなくてもよいようにと、使い方が複雑なものは単純化され、自動化や効率化、高機能化が進められた。以前より手間のかかるものをわざわざ開発することなど、想像もできない。

私も、元は設計の自動化について研究していた。何か欲しいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。ところが、あるとき、次のような疑問が生じた。全てを自動化できれば楽にはなるが、その分、自分で考えることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になることで楽になるという側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

このような考えから私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよび、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

そもそも、「不便」とはどういうことだろう。ひと口に「不便」といっても、人によってその言葉の捉え方はさまざまだ。それではしっかりとした分析や議論

1
複
雑
対

9 確かに、
……しかし、
……
文

13 見過ごす 関 見落とす

見のがす
見誤る